

教 師 ノ ー ト

日付	2022年10月9日
単元	創世記・3
テーマ	励まし助けてくださる神様
タイトル	神さまの約束
テキスト	創世記 15:1-6、17:1-8、18:1-15
参照箇所	
暗唱聖句(教会で使用している聖書訳を記入して下さい)	創世記 17:1
AG 日曜学校教案参照箇所	
メモ(情報・例話など)	<p>先週のお話しに続き、今週もアブラムのお話です。ここでは、信じて祈り続けることの大切さを教えます。ただし忍耐して祈り続けることを言うために、ただ我慢することだけを強調しすぎないように気をつけましょう。むしろ神は信じられなくなりそうだったアブラムを助け励ましてくださったことを強調しましょう。そして、祈りは(自分たちの思い以上の答えで)必ず答えられることを教えましょう。子ども達の心に、祈りの素晴らしさと希望を伝えられるように、まず教師がしっかりと祈り備えて聖霊に導いていただきましょう。</p>
□導入	<p>今回は「励まし助けてくださる神様」ということがテーマになっています。神の励ましを語るために、まず教師そのものが、日ごろ自分が体験したことを語りましょう。教師の体験ほど、子ども達の興味を引くものはありません。もちろん、適応に使うこともできます。また、他の教師や身近な信徒の証しも良いでしょう。(ただし一言本人の許可をもらってください。)</p> <p>励ましは、弱さの後に来ることを教師はしっかりと覚えておきましょう。</p>
□ポイント1 神様はアブラムに子孫が増えることを約束しました。(15:1-6)	<p>「これらの出来事」とは、14章にあるように他民族との争いごとが多く、アブラムは毎日心配ごとが尽きなかったようです。神はそんなアブラムを、まず励まして、心配しなくても良い、私があなを守り、沢山のものを与えると約束をしました。</p> <p>するとアブラムは、「そんなことを言っても、神さまはどうせ何もしてくださらないのではありませんか。私の子孫を増やすとおっしゃったのに、まだ子ども(サライとの直系の子ども)も与えられず、私はもうこんなに年をとりました。」と、神に約束の子どもを求め、訴えました。(2-3 アブラムが、繰り返し与えられこの約束に、問い返し訴えたのはこれが初めてのこと。また、アブラムがエリエゼル(奴隷)の名前を出したのは神への皮肉ではなく、切実な必死の思いから。)</p> <p>神はそんなアブラムに満天の星空を見せ、あなたの子供達はこのようになると励ましました。そしてアブラムはそれを信じました。アブラムの偉大な信仰は、神の言葉を素直に信じたところです。神はその素直に信じたことを義といわれたのです。</p>
☞「義と認められる」とは、神の前に正しいと認められ、問題なしと受け入れられることです。	
☞ 子ども達の中には、満天の星空(星の数がどれだけ多いか)を見たことのない子もいると思います。神のなさることがいかにすごい、イメージがわくように星空の写真などを見せると効果的です。	
□ポイント2 アブラムは神から新しい名前をもらいました。(17:1-8)	<p>アブラムは99歳、サライ89歳になりました。しかし、この歳になってもまだ子どもがいませんでした。人間的には子どもを生むのは不可能な年齢になってしまいました。</p>

そんなアブラムに神は現れ、彼に語りかけました。「私は何でもできる不可能のない神である。わたしは、あなたとの約束を必ず果たす。あなたはわたしに、忠実について来なさい。」(1)神はさらに、約束していた子孫繁栄の約束を繰り返しました。それは神が忘れることなく約束を守っているとアブラムを励ますためでした。

神は、約束が果たされる時が近づいてきていることを、具体的な形で表し始められました。それはアブラムの改名(改名という新しい契約)でした。アブラムは「多くの国民の父」(アブラハムの子孫という家系だけではなく、信仰を受け継ぐもの達が出ることを意味している。)という意味のアブラハムと言う新しい名前をもらいました。

☞ここでは二つのポイントがあると思って良いでしょう。一つは、私達が不可能と思う状況でも、神には不可能はない解決できないことはないということです。二つ目は改名です。神と約束をすることは、過去の自分と決別したのと同じことです。神を信じたことで、あなたは今までの人とは違うのだということを、アブラハムに名前を変えることで教えたのです。

☞16章は今回入っていませんが、アブラムの焦りからきたハガルとの失敗は、この後様々なトラブルの元となります。神に義と認められたからといって、人は決して完璧になるわけではないことが分かります。アブラムを超人的(特別すぎる)信仰者としないうちにも教師は一読しておきましょう。

□ポイント3 アブラハムの子供が生まれる時が近づいてきました。(18:1-15)

3人の旅人がアブラハムの所に来ました。アブラハムは、急いでテントから出て行き、ぜひ自分の所で休息を取るよう願いました。アブラハムは3人の旅人を手厚くもてなしました。(パレスチナでは、旅人を手厚くもてなすことは普通のことでした。しかし、アブラハムの2-4節の言葉から、彼は直感的に神様の使いであることが分かったようです。) その中の一人が、来年の今頃サラが赤ちゃんを産むことをアブラハムとサラに伝えました。サラはその知らせを聞いて、「こんな年寄りに、赤ちゃんが生めるなんて、そんなことありえるはずがない。」と心の中で笑ってしまいました。神がその笑いを見逃すはずがありませんでした。すぐに、何故疑うのか(笑うのか)と言われました。サラは必死で笑いませんと打ち消しました。そんなサラに神は、疑わないで信じなさい、神にできないことはない、必ず生まれると約束してくださいました。

☞ここで教えられることは、まず神の方から私達の所に来てくださるということです。しかし、私達の方でも来て下さる神様を、心から歓迎することが大切であることを教えられます。

☞アブラハムのもてなし方は、テント生活者(遊牧民)としては、相当なもてなし方だと思われます。メッセンジャーはさらっと言わないで、表現をつけて体でそのご馳走の素晴らしさを表すとよいでしょう。

□結論 神はアブラハムが信じられるように、また信じ続けられるように、何回も励まし神との約束を思い出させ助けてくださいました。それと同じように私達にも神は、励ましと助けを必ず与えてくださるのです。 暗唱聖句を読み上げます

□適用(例話)

1) あなたはお祈りしても、神様がすぐに結果を出してくださらないとき、サラのように(笑ってしまって)途中であきらめてやめていませんか? 不安になったり心配になったりした時、アブラハムのように、正直に自分の気持ちを神様に祈りましょう。「神様どうしてですか!」、不安なら不安、苦しいなら苦しいと。神様は何度もアブラハムを励まし、助けてくださいました。同じように、あなたの正直な祈りにも答えてくださいます。正直に祈れば祈るほどアブラハムと同じように、あなたも神様の約束が本当だと心から信じられるようにしてもらえます。だから今日からあなたも、正直な心の思いを神様にお伝えしましょう。

2) 皆、ドラえもののノビタを知ってますか。彼は毎週ドラえもののポケットから、良い物を出してもらってます。でも必ず調子に乗って失敗するんだよね。しかも毎週必ず失敗します。本当にノビタって成長しないよね。実は僕達も彼にそっくりな所があります。毎週神様のことを教えてもらっても疑って失敗して、また教えてもらわないと分からない、信じられない。何か似ているでしょう。でも、ドラえもんは僕達の神様はかなり違うよ。ドラえもんはノビタを変えることはできないよね。神様は違います。神様は僕達を成長させることができます。そんな僕達の神様に正直な気持ちで、いつも信じていることができるように祈りましょう。